

白梅

公益財団法人

栃木県ひとり親家庭福祉連合会

宇都宮市野沢町4-1

☎ 028(665)7806

発行人 栗橋幸子

印刷所 高橋平版社

平成28年度 ひとり親家庭福祉研修大会 の結果について



下野市 田口 茂子

七月三日(日)～四日(月)、鬼怒川観光ホテルに於いて「栃木県ひとり親家庭福祉研修大会」が113名の参加のもと開催されました。

■基調講演

「おせっかいが繋ぐ子どもと地域」要町あさやけ子ども食堂の現場から」と題して、認定NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク理事長栗林知絵子氏のお話をお聞きました。

「私はおせっかいおばさんです。」と自己紹介して講演が始まりました。

自分が子どもの頃辛い時に元氣を出す源は、自然に囲まれた

ふる里で遊ぶことでした。この体験を今の子どもにも体験させたいという思いから、子どもの居場所「子ども食堂」を始めました。孤食になりがちなひとり親家庭の子どもにとって、子ども食堂は多くの友達と遊べ、時には勉強し、おなかいっぱい食べられる、安心できる居場所です。調理をしてくれる地域のお母さんたちとの交流も深まっています。引きこもりだった子どもが、おせっかいおばさんの声掛けで心を開き元気になったという嬉しいこともありました。これからも、子どもの居場所を点在化することを目指し活動を展開して行きます。と力強いお言葉をいただきました。



■分科会「目指そう！自立、活かそう！支援策」では、

・アートセラピー、テンプルアート等活動支援を受けて若い人が興味を持つてもらえる事をしている。

・会の行事に自立支援員さんも一緒に参加して、お母さんの話しを聞くなど、行事を有効に活用している。

・学習支援ボランティア活動は活発で支援の先生方も良い方々で喜ばれている。

・子ども食堂を開始するため準備をしている。

・母子会は市役所等の自立支援員さんを紹介する窓口になる(支援策を活かすもことになる)。

・栗林先生から、子ども食堂はひとり親家庭だけに限定する必要はない。限定しないことによつて、ひとり親家庭への偏見が生まれない。開かれた会にすることが必要と助言されました。

・木村副主幹からは、若い人が団体に所属したがるので新規加入が難しい。けれど地道な活動が続ける事が大切と助言されました。

■分科会「母子と寡婦 つなぐ世代の輪」では、

・若い人は就労しているためか連絡をしても行事に参加してもらえない。

・若年の人達だけで何か出来るよう推進中。そうすれば後に結び付けられると思う。

・新規会員加入促進をするので

広報誌に
会員募集
の記事を
載せても
らう。

・自分が子
育てでお
世話にな
ったので、
今度は恩
返しので
き。

・一年後位に手があくのでお手
伝い出来る。

・平石支援員から、児童扶養手当の相談を受けたとき母子会の存在を知らせている。地域とのつながりが大切と助言されました。

・斉藤会長からは、加入促進は難しいが会員の連絡は密にすることが大切と助言されました。

■事例発表では、

・車の免許を持たない私は、旅行やお楽しみ会に連れて行ってもらえて嬉しい。

・昨年、広報誌を見た人が一人加入した。

・活動運営を若い会員が行ってくれるよう活動している。

・町の福祉祭りで三角くじの売店を開き、売上金を活動資金にしている。

・若い世代の人が居心地の良い会に行きたい。今回の研修会に母子部長が初めて参加してくれたことが嬉しく力強い。



栃木県民福祉のつどい



知事表彰を受けて

那須烏山市 西原 和子

私は、母子家庭で育ち、苦しい事もありました。平成二年、病で夫を亡くし、自営で働きながら、三人の子供と義母と生活してきました。夫の死を無駄にしたいくない。私より若くして離別している人もいます。何か力になれるならと考えました。

会の皆さんの協力で、交流事業や研修会などいろいろ楽しい行事を実行し、会の皆様のお役に立てたことが、この度の受彰になったものと考えております。今後もひとり親家庭の皆さんと仲良く、支え合って、成長する母子会の活動をして行きます。ありがとうございます。

会長賞を受賞して

足利市 三田 眞理子

三十二年前、夫がガンを知されました。本人には内緒でしたが、三十三才の主人には、病名は薄々解っていたと思います。子供が四才と十ヶ月の為、実家に頼っての闘病生活になりました。父母兄弟主人の母、兄弟友人に助けられ看病出来ましたが、遭えなく亡くなってしまいました。二人の子供を残して逝った主人は無念だったと思います。親子三人主人が心配しない様に「泣くも一生笑うも一生それなら笑ってしよう」と心に決めて今日に至っています。

母子会に入会したきっかけはクリスマス会でした。近所の母子会の人に誘われて参加してからです。初めての体験で少し戸惑いましたが、会長さんや役員さんの優しい振舞いと同じ境遇の人達と一日楽しく過ごす事が出来ました。それから、事有る毎に、地区会長の戸田さんから連絡が有りまして、色々な所に参加させて戴き親子共々とても感

謝しております。楽しい思い出になりました。

八年前からは、母子会の役員として会の運営に微力ながら携わっています。又、斎場売店に勤務しています。母子会行事は、会全体の招待旅行、バーベキュー大会、デイズニールゾート等で地区交流会では、各地区で花の寄せ植え、キー作り、いちご狩り、カレー作り等母子寡婦一緒に楽しんでいます。これからもより良い会になる様に微力ですが協力していく所存です。

今回は会長表彰受賞ありがとうございました。



県民福祉のつどい 表彰者

第22回栃木県民福祉のつどいにおいて、永年の母子寡婦福祉の功勞により次の方が表彰されました。

《栃木県知事表彰》

母子家庭等支援功勞者

佐野市 青木 マツ
那須烏山市 西原 和子

《栃木県ひとり親家庭福祉連合会長表彰》

母子寡婦福祉関係功勞者

足利市 三田 眞理子
佐野市 押山 弘美
鹿沼市 大出 弘子
鹿沼市 小嶋 ツヤ子
壬生町 田邊 敏江

～おめでとうございます～

地区だより

真岡市

原口 久子

五月の総会の日帰り研修に続き、六月十九・二十日一泊二日で北茨城方面に寡婦研修に出かけました。一日目は五浦岬公園と野口雨情記念館を見学しました。記念館前の銅像の所では、シャボン玉を出すために手をかざし童心に帰ったように皆喜んでいました。二日目は美空ひばりの「みだれ髪」の歌詞で有名な塩屋崎灯台に向かいました。道中至る所で津波で流失した家屋の基礎部分だけ残った空

地が見受けられました。塩屋崎付近の道路はまだ完全に整備されていない状態で家も建っておらずダンプや建設機械が慌しく動いていました。運転手さんの話では全て津波で流出しましたが、皆高台に避難して幸い一名の死者もでなかったそうです。あれから五年以上も経つのにまだまだ地震による津波の爪跡は酷く、街が以前の生活に戻るのはいつになるか不安になりました。駐車場から灯台に行くためには石段を登らねばなりませんでした。途中「喜びも悲しみも幾

年月」の記念碑があり、この灯台がモデルで映画化されたのだと知りました。やっとの思いで登った展望台では、太平洋の潮風を受けながらこの穏やかな海が続くよう願わずにはいられませんでした。

足利市

三田 眞理子

七月二十四日、母子招待事業で池袋サンシャインシティに親子六十一名バス二台で行って来ました。今回は、現地解散好きな所へ各自で行くため、参加費は大人子供一律五百円です。ナングセンターと行く所は様々です。私は1人でプラネタリウムと水族館を見学しました。水族館では水槽パフォーマンスがとても良かったです。女性スイマーが色々な魚達と繰り広げるショーは感心して見ました。またアシカのショーも三頭が頭の上にボールを乗せてにっこり笑ってみせたり、色々な芸をして私達を楽しませてくれます。私も一緒に踊って童心に帰って遊んできました。今回は皆さんお金が掛かって大変だったかなあと心配しましたが、帰りのバスの

中で感想を聞いたところ「楽しかったよー。」と言っていたので安心しました。

以前よりも母子会の収益が少ないため、皆さんへの援助があまり出来なくて、デイズニールゾートは参加費が結構高くなりますがいつも大人気の行事です。市の助成金と母子会の収益金で色々行事を行っています。

また各地区の交流会で地区ごとに、花の寄せ植え、クリスマスケーキ、リース作り、カレー作り、いちご狩りと様々な催し物をしています。この時は母子会から少しですが助成金を出します。会員の方々が、楽しく参加できお友達が出来るといいですよ。皆さんが「母子会に入っていて良かった。」と思える会になればと思います。



益子町

小葉 静子

七月二十日、日帰り研修旅行に行ってきました。群馬県みどり市にある、星野富弘美術館です。事故という一瞬の出来事からつらい闘病生活を強いられ、口で筆をくわえて文字と絵を描くことで生きる力をもらい、独特の詩画を発表している。どの絵を見ても、素朴で美しい詩の世界に引き込まれて「生きる勇氣」をもらいました。二十六名の参加者も、皆さんそれぞれに感激している様に思いました。野に咲く花、庭に咲く花、その時々心が語りかけてくれる心が安まる良い一日を過ごせました。

壬生町

佐藤 悦子

長男十歳、次男八歳の時に、初めて那須の茶臼岳に行ったバス旅行での二人の笑顔は忘れません。初代会長の勧めで入会し学校給食婦の職も世話していただき、生きる氣力をなくしていた私に明るい希望が湧いてきました。

その時のことを思い出した。次に、次の人のためにと心がけ、六十歳で定年になった後はひとり親家庭の幸福を願いながら、久賀さん小林さん瀬戸さん三人の会長のもと会計の役に就きました。

初代会長の五十嵐さんの面影を追いつつ、いつしか私も八十の坂を越えようとしています。どうか皆さん子宝を大切に、今が出发点、ふんばりどころです。せめて子供の前では笑顔を絶やさずに、きっと良い日が来ると信じて、一日一日をたくましく元気に生きてください。

鹿沼市

K・F

四月三日（日）栃木県ひとり親家庭福祉連合会の合同定例会に初めて出席させていただきました。会場は、自立のために相談や面談、講座やイベントの参加として託児をしていただいたところで、私にとってのパワースポットです。

この日も桜の花が咲き始め春の暖かさを感じるスタート感いっぱいの日でした。和やかに話し合いも始まり、県内各地から集った会員が未来のために熱く語り合いました。その中で感じ

た事は、組織の連帯感の強さです。助け合い、認め合い、暖かく受け入れる力の大きい人間味あふれる会の皆様なんだと深く感じました。

今私が求めているのは安心感と信頼感そして休息です。いつでもどこかに将来への不安や恐れを持っていきます。1人で頑張るには限界があるけどこの日安心できて支え合える仲間がいる事を知りました。無理に頑張らなくて良いのかも、大丈夫！と心に思える時が来ました。

これからは、皆様と共に出来る事、無理する事なくコミュニケーションを取りながら支え合い楽しく行事に参加し成長して行きたいと思います。

那須烏山市

高田 クミ

白梅の発行に今回から携わることとなり、不安と心配でいっぱいですが、先輩方と意見を交換し合いながら、年二回の発行だからこそ、有意義な内容にして行きたいと考えております。

そして何よりも大切なことは、各地区の協力であると思います。私達の地区も新企画や事業を取り入れて、新しい発信が出来るように頑張っていきたいと思っています。

ひとり親家庭サポーターのつどい

「立ち直る力」をテーマに開催します。

日時 10月30日(日) 12時30分～(受付開始 11時40分～)**場所** パルティとちぎ男女共同参画センター ホール**内容** 講演「ハピハピスマイルひとり親子育てFUN闘記」

株式会社エフエム栃木 放送部 放送部長代理

アナウンサー・プロデューサー 鹿島田 千帆 氏

**参加費** 無料 どなたでも参加できます。

ひとり親家庭のお父さん・お母さん ひとり親家庭に理解のある方など

託児 あり(事前にご連絡ください)**参加申込み・お問い合わせ** 栃木県ひとり親家庭福祉連合会

☎028-665-7801, 7806

家庭生活支援員養成研修受講生募集

ひとり親家庭の方が、病気や冠婚葬祭、学校行事、就職活動などで、育児に困った時に子育てをサポートする家庭生活支援員養成研修の受講生を募集します。一緒に子育てのサポートをしませんか？

▶土曜日コース

1月21日

2月4日・18日・25日

▶日曜日コース

1月22日・29日

2月5日・19日

※上記の他、保育施設での見学実習があります。

内容 子育て支援に関する講義**対象** 5日間の講習をすべて受講できる方。家庭生活支援員として登録し、子育て支援に従事できる方**場所** とちぎ男女共同参画センター(パルティ)及び居住地区の保育施設**受講料** 無料**託児** あり(予約制)**申込締切** 12月20日(火)**お問い合わせは** 栃木県ひとり親家庭福祉連合会

☎028-665-7801, 7806



役員の変更

平成28年6月9日の評議員会・理事会において、県ひとり親連合会の役員の変更がありました。

退任

会長 永渕 久子

副会長 高橋 美代子

副会長 齋藤 雅世

副会長 栗橋 幸子

お世話になりました

就任

会長 栗橋 幸子

副会長 川上 佳代子

副会長 川田 芳子

副会長 田口 茂子

よろしく願います

編集後記

日に日に秋の空気が濃くなって行き、台風や夕立などがまだまだ気になる季節ですね。

今回の白梅発行にあたり、沢山の方々に原稿を書いていただき感謝いたします。

白梅も、沢山の会員の方や母子部の方にも目を通して興味を持っていただける様な広報誌として、会の目的、有意義な活動報告等、今後色々な情報を数多く伝えて行ければと思います。



〈広報部会〉

田口・斎藤・荒木・高田
山口・木村・小葉・三田
織田・福田

「白梅」は、赤い羽根共同募金配分金により発行しています。

